
携帯物語

立花透琉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

携帯物語

【Nコード】

N8502L

【作者名】

立花透琉

【あらすじ】

目が覚めると、携帯電話が人間になってた?!
携帯電話擬人化です

（前書き）

携帯擬人化の話です。
ご注意ください

人は非現実な出来事に会おうと、どうなるのか…

例えば、悲鳴をあげるとか

動きが止まるとか

現実逃避してしまうとか…

大概そんなものかと思う

大体…非現実な事なんて、そうそう起こるものでもないのだ

ふと、目が覚める。

毎日の生活リズムとは恐ろしいもので

それが平日だろうが休日だろうが、自然と目が覚めてしまう。

目覚めるのはアラームが鳴る直前位。

いつも、アラームがなるまでごろごろして

アラームが鳴ったら起きる生活。

だって、布団から出るのは億劫だから…

ぎりぎりまで寝ていたいというのは、誰しも思うことだと思う。

今朝もぼんやりと天井を眺め、それから寝返りを打って
携帯のアラームが鳴るのを待つ。

… …

大好きなアーティストの音楽が流れ
(鳴っちゃった…)と身体を起す。

枕元を見ず、いつものように携帯を取る。

そして、フリップを開けて携帯を止めようと…

止めようと…

止め………

「はよ、マスター」

手の中にあっただのは…携帯？

「おい、起きてんのか？マスター」

携帯…

だっ たはずなんだけどな

「いつまで俺を握り締めてんだってんだっ」

手の中にあつたのは、携帯ではなく小さなお人形？

と、いうか…人形もしかべらないと思うけど…

その”人形”は、私の手の中でぎゃんぎゃん騒いでいる。

髪は赤と黒のMIX。

無造作に跳ねた少し長めの髪から覗く瞳は勝気そうな切れ長のグレ
ー。

「マスター！！聞いてんのかっ」

「…あゝ…やだなあ。まだ頭が寝てるのかなあ」

そっぴや、昨夜はなんだかんだと寝る時間も遅かった。

「それより、携帯…携帯つと。どこにやったのかなゝ」

人形を枕元に戻すと、布団から出て携帯を探す。

その私のパジャマの裾を、先ほどの人形がツンツンと引っ張ってく
る。

「…っ、ここにいんだろ」

「…はあ？」

「俺。W53CA」

ムッとしながら自分を指差す人形。

「俺がマスターの携帯」

「……………」

寝起きの頭に、そんな突拍子のない事を言われて
素直に「そうなんだ」とか言えない。
寝起きじゃなかったとしても、意味不明。

「…人形が何しゃべってるのさ」

「人形じゃなくて携帯だっつの」

「携帯はしゃべったりしないし…。大体人の形してないし…」

理路整然と常識を述べてみる。

しかし、目の前の人形には無意味だったらしい。

「そろそろ現実見たら？俺がマスターの携帯。

信じなくても、それが現実なんだから諦めろって」

仮に…こいつが私の携帯だったでしょう。

なんで、こんなに口が悪いのさ。

「あんたね…ちっちゃいくせして、態度でかすぎ」

私は諦めたように人形の前にあぐらをかくと

その髪の毛を引っ張る。

「いてえ！！なんだよ、ちっちゃいってのが不満かよっ」

そう言っと、携帯（だと言ってる人形？）は

ピョンツと跳ねると…私の口に軽くキスをして…

「え、え…ええええええ！！」

私は目の前の状況に絶叫せざるを得なかった。

「これで態度がでかくっても文句ねえだろ？」

ニヤツと笑うのは、私よりも背が高い…男性。

雰囲気からすると…さっきの携帯電話のようで…

「で、マスター。そろそろ時間危ついんじゃないの?」

そう言われて、ハタツと我に返る。

携帯電話が人形みたいだったとか

それが大きくなったとか…

そもそも、しゃべってるってどういう事なのかとか

考えなきゃいけない事は沢山あるが

時間は無常にも過ぎていく。

私は慌ててロフトを降り、身支度を整えようとするが…

「あ、言い忘れ。今日は祝日だから」

ロフトから、のほほんとした声がする。

「…しゅ…くじつうう!!」

「そ、仕事は休み。アラームかけてたから何か用事があるのかと時間を教えたただけだけど?」

ロフトから見下ろしてこっちを見る携帯野郎に

私は何も言えずがっくりと項垂れた。

（後書き）

友人が携帯擬人化を書いていて、触発されました。

結構楽しかったのですが、難しくもありました

他の話を書いてみたいなあとは思ったんですが、実現できてません。
読んでくださってありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8502l/>

携帯物語

2010年10月10日05時23分発行